

季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

日々の暮らし

2020 年は新型コロナウイルスに始まり、収束しないまま年を越すことになりました。

それでも毎年のことですが、1 年でいちばん昼の長いこの時期となると、台所の右側の大きなガラス窓から夕陽が差し込んで来るようになります。これは午後 8 時頃のことです。自然の営みは、異常なコロナ禍をもものともせず、正確に地球の時を刻んでいます。

年末となると、定例となったツバメの子育ても、既に終わってしまいました。これまであった巣の嵩上げをして、雛たちを育てていました。つばめは古くから幸運を運んでくると言われてきました。つばめたちの運んでくれる幸運に、大いに期待したいところです。

例年、お盆のある 8 月には帰国していましたが、2020 年はそれも出来なくなっていました。2013 年に永住権を取得して、ここに定住して以来、初めてのことでした。8 月、9 月の NZ の真冬も初めての経験でした。

文中にある H はヒトシ、J はジリアンのことです。今年も長くなりましたが、お読みいただければ幸いです。

ガーデニングは無農薬・無化学肥料栽培

今、わが家の畑でやっているのを農業とは言わず、ガーデニングと言っているのは、農業のように農作物を栽培し、販売して、生業にすることを目指している訳ではないからです。それほど、本格的に取り組んでいる訳でもありません。自分の所で生産されたものを食べているのですが、無理して自給自足は目指していません。

栽培するのに農薬はもちろん、除草剤も使いません。肥料は販売されている化学肥料は使わず、馬ふんとかコンポスト(堆肥)で代用しています。最近、コンフリーの液肥を作り、これも使うようになりました。昔ながらの栽培方法です。なるべく安全で安心できるものを食べるようにしています。



季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

わが家は野鳥の楽園か？

野鳥がたくさん生息する中で、生活しています。ツバメは、もっともフレンドリーな感じを抱かせてくれます。とりわけ子育ての時の雛たちの可愛さは、本当に心が癒されます。わが家には隣地から流れてくる水を集めた池があります。今では雑草だらけですが、それを取り除けばスイレンが美しい池です。この池、水深が浅いこともあって鳥たちにとっては絶好の水浴び、水飲みの場となっています。

次に鳥たちにとって、都合がいいのが、私たちが野菜の種まきをするために、雑草を取り除き、さらさらの土を集めて畝をつくりタネをまいたときです。格別の砂浴びの場とされてしまいます。NZには牧草地は全国、至る所にあります。牧草がなく、畑状態になったところはほとんどありません。

どうも野鳥たちにとって、わが家は楽園のようです。野鳥ではないのですが、隣人の鶏2羽も、はるばるやって来て、日長、畑で時を過ごしています。この2羽にとっても、楽園のようです。

ジャガイモの芽を喰う鶏

2羽の鶏のことで、もう少し。10月の初めにジャガイモを植えた時のことです。この2羽の鶏がジャガイモを掘り起こし、何と有毒と言われる芽をつつついた跡がありました。たぶんカラダへの影響はあるはずですが、その後も元気いるところを見かけます。動物によっては、毒にはならないのか、NZという特殊風土のなせる業なのか。

ジャガイモの実

12月になり、初めて見つけたのですが、2種類受けたうちの一つの種類のジャガイモに実がなっているを見つけました。ネットで見ると、それほど珍しいことでもないようなのですが、初めて見ました。トマトが成っているように見えます。ジャガイモもトマトも同じナス科の植物ですから似ていても不思議ではありませんが。

ラッキーの死

ラッキーというのは近所の友人の持ち馬の名前です。私たちが、ここに日本から引っ越してきて10年以上になりますが、自分のところのパドックに草が無くなると、わが家のパドックに来ていました。オス馬で馬齢で28歳になった2020年に死んでしまいました、人間の年齢に換算すると80歳でした。これまではラッキーの馬ふんを肥料にしたり、コンポストにしたりしていましたが、それが出来なくなっていました。来てくれる新しい馬を探し始めました。

季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

条件は今まで通りのタダということにします。フェンスは、5本の針金が張られています。ウシか馬ならば、これを潜り抜けられないのでいいのですが、羊やヤギ、アルパカだと外に出てしまいます。最近、隣人のウシはどうかという話が浮上してきました。まあ、牛でもいいと思い始めた所です。

コンポスト（堆肥）

2020 年はいつもの年と違い、8 月、9 月に帰国しなかったのと、コロナ禍で外出を控えたため、ガーデニングに向かう十分な時間がありました。そこで、コンポストづくりに力を注ぎました。何回となく切り返しをしたり、湿度を適度に保つため、水をかけたり、発酵菌の多い土を混ぜたりしました。最近見たコンポストづくりの HP によれば、水道水を掛けると水道水に含まれる塩素で、発酵菌が死んでしまってよくないとありました。これまでは、コンポストに良いことをしていると思ってやっていた作業が、悪いことをしていたのです。正に「目からうろこが落ちる」でした。

やっかいな植物たち

ちょっとの間、目を離していると、所かまわずそのテリトリーを拡大する縮物があります。もっともやっかいなものの代表が、ジャスミン（Jasmine）です。匂いもよく花もそれなりに綺麗なのですが、蔓で伸び、茎が地上を這う時には、四方八方に節ごとに茎を伸ばすとともに、根を出して成長していきますから、地表はすぐに茎でがんにがらめになってしまいます。これを取り除くのは、とても厄介です。簡単には取り除けません。NZ では有害植物の扱いを受けていて、園芸店での販売は禁止されています。

ハニーサックル（Japanese honey suckle）は、和名ですいかずら。花を吸うと甘い味がします。日本を起源とする植物のようです。これも蔓で伸びていきます。今ある植物に絡みついて伸びていると、

ハニーサックルだけを取り除くのが、本当に厄介です。時が経つと、茎はどんどんと太いものになっていきます。

NZ 全体で問題になっているのがゴース（Gorse）。マメ科の縮物で黄色い花を咲かせます。鋭い棘が特徴で、牧草地に繁茂しています。放牧されている牛、羊は棘を嫌ってゴースを食べません。繁殖力が強く、パドック全体が、このゴースに覆われてしまったところを見かけることが、よくあります。ゴースが小さいうちなら除草剤も効きますが、大きくなると手が付けられなくなります。

日本では垣根に使われているプリビット（Privet）も厄介です。至るところに芽を出し成長が早い。この木の花粉も花粉症の原因になるとか。見

季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

つけ次第、切り取っていますが、なかなか退治できずに困っています。

りんご

前シーズンのリンゴは、十分に満足のいくものでした。いちばん成績の良かったのは、フジでした。この国で最もポピュラーなローヤル・ガラは、樹は大きくなったのですが、あまり実が付きませんでした。ゴールドデリシャスは、これまで実を付けすぎて、樹も大きくならず、前シーズンは実もあまり付きませんでした。

2~3 月にかけての日本、ヨーロッパの旅から帰った時、わが家のパドックに放置されていたヤギ 2 匹のいちばんの被害を受けたのが、りんごの樹でした。幹の皮を上下 50 cm ほどに亘って、ぐるっと喰われていました。枯れてしまわないか心配していたのですが、今のところ、何とか生き延びていて、今では実も付けています。

ウメ

今シーズンになり、ウメの苗木を売っているところが見つかり、オンラインで購入しました。残念ながら、今あるウメの木の開花期には間に合わず、受粉もできませんでした。一般的に果樹は、2 本の違う種類の木を植え、お互いに受粉するようにします。これまでウメの木は一本しかなかったため、実が付きにくかったのですが、来シーズンからは期待ができます。今シーズンのウメは 6 個、採れて梅漬けにしました。

ブドウ

前シーズンは、よく成り、鳥や虫の被害もなく満足できました。それまでは、丹念に手を入れて管理していたのですが、あまりうまく実が付かなくてがっかりしたのを覚えています。前シーズンのように手をかけずに収穫ができるのは嬉しいことです。今シーズンも放任に近い状態が続いていますが、実の付き方は良好です。ほとんど野生化したブドウも、よく実を付けていて秋が楽しみです。

オリーブ

数年前に植えたオリーブの木が、背丈を遥かに越して成長しました。春に蕾がいっぱい付いて、今シーズンに収穫できるものと期待していたのですが、その後、実の成っていないのに気づきました。どうも樹勢が強すぎたためのようです。来シーズンに向けて、樹勢を落とす対策を考えなければならい所です。

キウイフルーツ

毎日、キウイの実を採ってくれた J のカウントによれば、前シーズンの個数は 2,456 個になりました。もともと、わが家の旧オーナーが植えたオ

季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

スのキウイ一本、H がメスのキウイを高接ぎしたものです。前シーズンとなり、急に収穫個数が増えました。

キウイフルーツは収穫して、すぐには食べられません。追熟というプロセスを経て、食べられるようになります。一般的には、リンゴやバナナと一緒にビニル袋にキウイを入れ、追熟させます。表面が柔らかくなったら、食べごろです。こうして表面を押さえて柔らかくなったものを食べます。すべてが甘くておいしいという訳でもありません。ただ、これだけ数が多いと、すべてのキウイを追熟させることもできず、大皿の上でそのまま放置して、柔らかくなったものを食べましたが、これは当たり外れがあり、甘いものあり、酸っぱいものありで様々でした。酸っぱいものは集めてジャムにしたり干したりして食べました。これだけのキウイを毎日のように食べた結果、分かったことは便秘にてきめんの効果があることでした。

フィジョア

日本ではあまりおなじみではないフィジョアの実がたくさん採れました。J のカウントによれば 1,690 個。キウイの一回り小さい大きさで、表面はつるつとしています。包丁で半分に切り、スプーンで中身を掬って食べます。酸味もなく、甘いものは美味しいです。収穫は秋、この時期に NZ を旅されれば、一度、食べてみてほしい味です。これもほとんど何も手を掛けずに収穫できます。有難い果物です。近所にも成っている木があり、頼めば喜んで分けてくれます。

お茶

自家製の緑茶を作ろうと植えたお茶の木も大きくなりました。HP の緑茶の作り方を参考にして作ろうとしてきましたが、何回も失敗を繰り返してきました。折角、木が大きくなりうまくすれば、お茶もできるのにと考えていたのですが、ある日、電子レンジを使う方法を目にしました。すぐに試してみました。これがそこそこ、うまく行きました。あとは電子レンジの時間をどのくらいの長さにすればいいかと揉みの程度をどうするかといったあたりまで来て、完成に近づきつつある気がします。

野菜

今、わが家で栽培している野菜は、次のとおりです。主に J が栽培しています。

ラディッシュ、レタス、トマト、アスパラガス、セルリ、ピーマン、バジル、ミント、セリ、パセリ、キャベツ、オクラ、タマネギ、ネギ、ビートルート、パースニップ、リーク、シルバービート、ハヤトウリ、インゲン、ダイコン、キュウリ、カボチャ、ゴボウ、ナガイモ、クミクミ、ジャガイモ、イチゴ、ルバーブ、カラシナ、ソレル

季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

コロナ禍の一年

1 月下旬 中国で新型の病気が発生。武漢でロックダウン。

2 月 2 日 NZ(0,0)→日本(20,0)

国名・都市名の後の()内の最初の数字は、当日その国の新型コロナウイルス感染者数、次は死者数で以下同じ。

出典；新型コロナウイルス感染世界マップより

毎年のように、2 月 2 日に帰国。着いた成田空港で武漢からのフライトがキャンセルとなった掲示板を記念に写真を撮る。

2 月初旬 東京に滞在する。マスクをした人が多い。

2 月中旬 飛騨高山に帰る。あまり人と会わないようにする。コロナ感染を心配した友人のお年寄りから面会を拒否される。

2 月下旬 コロナ関係での規制は厳しくなく、九州・熊本、天草を旅する。外国人の姿はない。

2 月 28 日 日本(218,4)→オーストリア(3,0)

2 月 28 日～3 月 1 日 オーストリア・ウィーン(3,0/9,0)

特に規制、警戒はない。中国人団体客の姿が見えない

3 月 2 日～3 月 8 日 英国・ロンドン(94/0,429/2) 天候不順、雨が多い

3 月 9 日～3 月 11 日 アイスランド・レイキャビック(50/0→69/0)

寒いが、温泉を楽しむ。入浴のルールを守らないお年寄りに怒られる

3 月 12 日～3 月 13 日 英国・ロンドン、マンチェスター(1,302/7→1,790/9)
患者が増えているよう。スーパーに入るのにソーシャルディスタンスを取っている。

3 月 14 日～3 月 16 日 フランス・パリ(3,681/79→4,532/91)

モンパルナス墓地の近くのホテルに落ち着く。初め、会うのに躊躇していたフランス人の友人と会うことになる。マスクをし、ビニルの手袋をして、1m 以上の距離を取って話す。公園はカギがかけられ、入園禁止。アンティークマーケットのヴァンプ、クリニャンクールとともに閉鎖されていた。閉鎖されてがらがらのルーブル美術館の広場、シャンゼリゼ通り、モンマルトルの丘。たくさんの画家が集まることで有名なモンマルトルの丘だが、一人の年老いた画家だけ。トイレは閉鎖されている。カフェは軒並み閉鎖。開いていてもテイクアウトだけで、店内での飲食は禁止。地下鉄内でスリ未遂に遭遇する。乗客が少なく、スリも自分の顔が見え見えなでも平気で仕事をしている。

季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

- 3 月 15 日 帰国便のウィーン→バンコク便のフライトがキャンセルのメールがオーストリア航空から届く。その後、数回に渡り、代替便はどうなるのかとメールするが、返事がない。パリからウィーンへの移動を鉄道すべく考え始める。
- 3 月 16 日 泊っていたホテルが閉鎖になる。この日の朝に、このことを伝えられ、昼までに出ていくようにとのこと。近くに開いているホテルがあるかどうかを尋ねると、あるとのこと。どうもグレードの高いホテルは閉鎖になり、少し下のホテルは開いているようである。近くにあるホテルに空室があったので、すぐに予約。締め出しを喰ったばかりなので、安全性を見込んで、2泊にする。インターネットで調べてみると、パリ→ウィーンのフライトはキャンセルの見込み。ホテル窓口で聞くと、ドイツは国境を封鎖するとか。確かな情報ではなさそう。さまざまな情報が錯綜している。

地下鉄のチケット、昨日までは対面で販売されていたのだが、今日からは対面販売が禁止となり、自動販売機での販売のみとなる。地下鉄でマスクの人は少ない。マスクの代わりに、長いマフラーを口にも巻き付けている人がいる。これが格好いい。

ウィーンへの列車の始発となるパリ東駅に行ってみる。チケット販売窓口には、長い列ができていた。列車は動いているようだ。

ホテルの近くにある小さなワインの店に入り、ワイン選びをしていると、先に店に入り店員を話していたお客の女性から、自分が店内にいる間は外に出てくれと言われる。コロナ警戒のことばと思われるが、アジア人差別の匂いがした。



くしゃみの飛沫防止を喚起

- 3 月 17 日 この不確かな状況を乗り越えるのに、大使館に助けを求めたらとフランス人の友人が助言してくれたので、NZ 大使館を訪ねた。受付の女性から今日から 1 カ月、大使館は休みになったと告げられる。国民の安全を守り、助けるべき大使館が、いち早

季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

く逃げ出していた。再び、パリ東駅に行く。今日は列がない。窓口が閉まっている。自動販売機でみると、キャンセルとか満席とかの表示が、かなりある。本日の夕方 7 時発、明日の朝 6 時にウイーンに着く列車のチケットを購入する。この列車、ドイツ・フランクフルト経由だが、大丈夫なのか心配になる。国境閉鎖が本当とすれば、運行できないはずである。

ホテルに帰り、二泊の予定が一泊になったので、一泊分を返金するように頼んだが受け付けられず。夕方、早めに東駅に行く。夕飯をコンビニで買ってくる。列車はコンパートメントではない。がらがらの車内で、ビールを飲みながら夕飯を食べる。ドイツに入ると警官が乗り込んできた。H、ビールが効いたのかトイレに行く。内側からドアを開けようとするが鍵が開かない。ドアノブをガチャガチャさせていると、案外早く、車掌が開けてくれた。どうもよくあるトラブルのようである。席に戻ろうとすると私たちのパスポートを手にした 3 人の男たちに止められる。ドイツの警官と分かる。乗車券の提示を求められる。厳しくチェックしていたが、OK が出て、パスポートとともに乗車券も返してくれる。

11 時頃にフランクフルトに到着。乗換案内の掲示板にウイーン行がない。駅には人が少ない。照明も暗い。心細くなる。それでも一人いた駅員に尋ねると、一駅先の南駅で乗り換えとのこと。その駅へ行く停車していた列車を指さされる。その南駅は、更に閑散として。ホームにいた若者 2 人に、確認のためウイーン行を訪ねてみるが、よく知らない。列車がホームに入ってきて、乗っていた車掌らしき男に確認すると、そうだ、という。列車に乗り込む。これはコンパートメント式。目が覚めたのは、朝方の深い霧の中。ウイーン中央駅に着く一駅前で、間違えて降りてしまうところだった。予定よりも遅れて 9 時頃に到着。駅は閑散としていている。それでも空港行の列車は動いているとの表示がある。明らかに旅行用の荷物を持った若者たちが乗り込んでくる。空港も動いていることを実感する。

空港に着く。ちゃんと動いている。私たちのキャンセルになったフライトの予定時刻は午後 11 時 20 分。もしこれが動くとしても、それまでに十分の時間がある。航空会社のカウンターはソーシャル・ディスタンスを保つために、通常の椅子配列の一つ分づつを空けて、対応している。お客は私たちを含めて、キャンセルされたフライトの対応のため、時間が掛かる。持っていた航空券は LCC ではないが、相当に安いチケットである。

季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

果たして代替便を提供してくれるのか。今日くらいが、フライトがある最後の日のようなことを言う人もいる。キャンセルされたタイ航空のカウンターにも係員が座っている。キャンセルになったフライトの前の同じ航路の便は動いている。そのチケットは買えないか交渉してみるが、発券元のオーストリア航空に相談してくれとにべもない。

ようようにして、私たちの番になる。カウンターには「キャンセルされた便の乗客には、代替便を提供される権利がある」との表示がある。真っ赤な制服を着た女性係員に、イーチケットを示すと、早速、コンピューターで調べ始め、ドバイ経由のカタール航空でいいかと尋ねられる。もちろん OK である。感謝の握手しようとしたが、コロナで駄目。このフライトが確定したことにより、昨日からパリからの脱出劇のような旅も、これで一段落ついた。

ウイーンからのフライトの機内はガラガラ。

ウイーン(16:05)→ドーハ(23:15) 5 時間 10 分

ドーハ(2:20)→オークランド(4:50) 16 時間 30 分

3 月 19 日 カタール・ドーハ(452,0)

灯りも煌々と点いて、空港内の店舗はすべて開いている。この国では、患者は発生しているものの死者がでていないための対応か。テレビは、オリンピックの聖火の灯がギリシャから日本に運ばれたと伝えている。ドーハからオークランドのフライトでは、人数制限は行われていないようである。空席はほとんどない。フライト時間は 16 時間 30 分ととても長い。機内サービスは何と 5 回もあった。イスラム圏の航空会社だが、禁酒ではなくアルコールも飲めた。

3 月 20 日 NZ・オークランド(28/0)

早朝、長時間のフライトの末、オークランド空港に無事、到着する。長かったパリからの脱出劇もあと僅か。驚いたことに免税店が開いている。このことはコロナの影響はあまり大きくないことを示している。検疫担当官から質問とお願いがあった。How are you? いつもなら、Hi とか Hello の意味だが、今日は、体調はどうかとの問いのこと。1m のソーシャル・ディスタンスを保って、質問に答えた。これから 2 週間の自己隔離中の注意点をまとめたリーフレットを渡される。主なポイントは、38 度以上の体温が続く、咳、呼吸困難、吐き気が続くようなら健康ライン Healthline)に電話すること。

季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

まだ、この時には公共交通機関のタクシーを使うことは許されていた。オンラインで事前に連絡を取っておいた運転手が、空港で出迎えてくれた。彼によれば、明日にもタクシーは使えなくなりそうとのこと。正にぎりぎりの脱出劇となりました。結果の話ですが、翌日にはレベル2に指定され、この運転手の言ったとおり、タクシーが使えなくなりました。本当にラッキーでした。

少し明るさが戻ったような時間に、タクシーはわが家に到着した。荷物を降ろしていると家の裏から物音がします。行ってみると、薄明りの中に子牛ほどの背丈の角のある動物が2匹、立っていました。てっきり鹿かと思いました。よくよく見ると、それはヤギでした。首輪をつけています。誰がわが家に放したものか。リンゴが大きな被害を受けました。中間の幹の樹皮がぐるっと喰われていました。野菜も酷いものでした。持ち主を探しましたが、見つからず、馬のラッキーの持ち主に引き取ってもらいました。わが家は、長期に留守にすることがあり、動物は飼えません。

3月21日 4段階のアラート（警戒）システムが始まった。最警戒が4。

3月21日～3月22日 レベル2

3月23日～3月24日 レベル3

3月25日～4月26日 レベル4

4月27日～5月13日 レベル3

5月14日～6月7日 レベル2

6月8日～現在 レベル1

レベル4 最警戒レベル。ステイホーム、教育施設の閉鎖、エッセンシャル・サービスを除いて閉鎖。スーパーマーケット、薬局、医院、ガソリンスタンドは開く。旅行制限。バブル内（2020年の英語に詳細を書きました）の人にしか会えない。警察のチェックポイントがあり、不要の外出制限

レベル3 公共施設（図書館、博物館、映画館、フードコート、プール、アミューズメント・パーク）の閉鎖、対面式相談の禁止

レベル2 集会の禁止、公共交通機関でのソーシャルディスタンスの徹底、旅行制限、リモートワークの推奨、高齢者の自宅謹慎

レベル1 厳格な自己隔離と検疫、500人以上の集会禁止、手洗いの推奨、くしゃみをするときは飛沫を肘で拡散を防ぐ。顔に触らないこと。

季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

3 月 29 日 NZ での最初の死者が発生

3 月 20 日～4 月 2 日

NZ に外国から入国した人には、2 週間の自己隔離が義務付けられました。この時期は、指定された施設ではなく、自宅で自己隔離すればよかったので助かりました。スーパーマーケットに行くのも禁止されていたので、最低限の食料を確保するため、近所の友人に買物に行ってもらいました。

わが家は隣家まで 100m くらい離れていますし、敷地も 5 千坪ありますから、3 密を避けた生活は簡単に出来ます。正にコロナ対応型の生活スタイルです。2 週間は、何のトラブルもなく静かに過ぎていきました。

3 月～現在電子メールによる危機通知

H がオークランド総領事館に在留届けを出していることもあり、2 種類の電子メールが届くようになりました。いずれも新型コロナウイルスの危機にどのように対応するかを知らせるものです。それぞれ「外務省海外安全ホームページ」と「在オークランド日本総領事館」と題するものです。

現在になっても、最近版がぞくぞくと届いています。

3 月～現在郵便物の制限、遅滞

レベルの酷かった時期には、NZ からと日本からの郵便物の発送は同時に禁止になりました。その後、禁止ではなくなりましたが、ひどく時間がかかっています。今でも日本からの航空便は 1 ヶ月近くかかって届きます。ところがクロネコ便で送ってもらう新聞は、酷かった時期でも 3 週間、今では 10 日ほどで届いています。

4 月 NZ－日本の往復航空券の購入

いつものように 8 月のお盆に帰国するため、NZ 航空の往復航空券を購入しました。ちょうど特別ディスカウントのセールもあり 4 月に購入しました。一般的に航空券は出発の 4 ヶ月前が一番安いと言われていますが、今回は、うまくこれに当てはまった感じでした。ところが新型コロナウイルスの拡大に伴い、フライトキャンセルの連絡が入りました。手持ちの航空券は 2021 年の年末まで有効との連絡も併せてありました。希望的には、夏までには帰国したいと思います。

4 月頃 JAL、ANA のフライトマイレージの有効期限の延長

コロナ禍で身動きが取れず、持っているフライトマイルがどうなるか心配し始めた頃、有効期限の延長を知らせるメールが届きました。乗客の状況を考えたとても、いい対応です。早く使えるようになればと願っていま

季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

す。

5月チーム5百万人

日本社会で好んで使われる表現にチームジャパンやチーム〇〇(〇の中に地名や会社名が入ります)があります。これは一体感が感じられ、集団性を好む国民性に合致しているのでしょうか。このチーム〇〇が、NZでは5月にチーム500万人という表現で登場しました。500万人というのはNZの人口を表わしています。個人主義が強いこの国にあって珍しいことだと感じました。5月と言えばコロナ対策のもっとも厳しいレベル4を乗り越え、レベル2までに戻った時期ですが、まだまだ先は不透明な頃のことです。この頃には海外で職を失ったNZ人たちも一斉に帰国しました。みんなで頑張っただけでコロナ禍を乗り越えようという強いメッセージが込められていたのでしょうか。

5月～オンライン会議

5月に、Jが編集委員になっている一般財団法人日本経済交流財団の発行する機関誌「Japan Spotlight」の編集会議が、オンラインで開かれました。Jはこれまでも編集委員に名は連ねていたのですが、NZ在住で、会議はリアル会議だったため、ほとんど出席できないでいました。会議がオンラインで開かれるようになり、参加できるようになりました。

思ったことは、会議に参加できて嬉しいということ、画像が不安定、音声聞き取りにくい、参加者のリアクションが見えないなどの不満も残りました。Jはこれ以外にも翻訳家の会議にも参加しましたが、これは日本、NZのみならずアメリカからの参加者もあり、とても便利と実感しました。

5月頃～現在 銀行

コロナ禍で町の銀行は閉まっていることが多いです。Hの使っているこの国最大の銀行であるWestpac銀行は週に火曜日と木曜日しか、開いていません。

8月に帰国できなかったため、いつもなら買物をして帰るのですが、今回はこれが無理となりました。こちらの日本食材店にも置いてないものを友人に頼んで送ってもらいました。それは、海苔と昆布茶です。

8月 トランプ米大統領が、新型コロナウイルス感染者が再び増加中のNZを槍玉に

- NZを見てみると、現在大感染が発生している、NZはもう終わりだ！NZで感染者が爆増しているのは大問題だ、(アメリカで)同じようなことが起こったら困る。
- 感染が爆増しているNZや他の国は私たちアメリカの状況が現実以上に深刻だとしてきた。我々はウイルスに対して非常によくやっている。

季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

- アーダーン NZ 総理大臣の反論
- NZ は第二波が発生している国の一つではあるが、我々は一丸となってウイルスによる影響を最小限に抑えています。NZ は現在でも、他国と比べ感染率が低く抑えられており、死亡率が最も低い国の一つです。一つ例を挙げると、アメリカは 100 万人あたり 16,563 人の陽性者が出ているが、NZ は 100 万人あたり 269 人。現在の NZ で発生しているクラスターと、毎日数十万人もの感染者を出しているアメリカを比較しても仕方ないでしょう。
- 感染者が何人いるかどうかではなく、国として一丸となってウイルスにどう対処していくかが重要。私たち NZ の感染拡大防止の取り組みは他の国と違うものだが、私たちが誇りにできるものだと思います。

8 月 1 日時点でのアメリカと NZ の感染者数、死亡者数の比較

	感染者数	死亡者数
アメリカ	4,559,806 人	154,478 人
N Z	1,562 人	22 人

トランプ大統領のこの発言は、大きなニュースとなり、マスコミや国民の多数の反論やジョークが沸き起こりました。両国の人口の違いはあるにせよ、新型コロナウイルス対策が、どちらがうまく行っているかは明らかです。

10 月 19 日総選挙と国民投票

コロナ禍も落ち着きを見せ始めた 10 月 19 日に、三年に一度の総選挙が行われました。投票場は町の中心にある公民館一か所だけ。とても投票しようとする人すべてが歩いて行けるような距離ではありません。コロナ対策として、入場に際して手の消毒、投票に使った筆記具のボールペンを持ち帰るように求められました。ボールペンは手を通しての他の人との接触を避けるためです。この日行われたのは選挙区選挙（一院制）と比例区選挙。同時に国民投票でした。

選挙は労働党の歴史的な大勝に終わり、単独で過半数(60)の議席を獲得しました。勝因として挙げられるのは、コロナ禍への適切な対応、過去 3 年間に失政がなかったこと、女性党首アーダーン首相のパーソナリティ。一方、大敗を喫したのが国民党、大きく議席を減らしました。敗因はスキャンダル、選挙直前の党首交代にありました。

国民投票に取り上げられたテーマは、安楽死と大麻栽培の是非でした。安楽死は賛成 65.2%、反対 38.8%。大麻栽培は賛成 46.1%、反対 53.2%でした。

季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

11 月 26 日～11 月 30 日国内旅行

北島最南端にある、この国の首都・ウェリントン周辺の旅に出ました。警報システムでレベル 1 となり、国内の飛行機旅行はできるようになりました。駐車場から空港までの送迎用バスはマスク着用となっていました。空港ロビーはマスクなしの人が大半でした。飛行機に乗るには、マスク着用しなければなりません。マスクのない人には、搭乗口でマスクが配られていました。機内の座席は乗客数は制限されておらず、ぎっしりと満席に近い状態でした。移動はレンタカーを使用しましたが、土曜日の宿泊をウェリントンから北へ 100km ほどの小さな町 Levin で宿を探しましたが、どこもいっぱい。説明によれば、海外旅行が出来なくなったため、週末には近くの町へミニツアーに出る人が多いため、宿がないとのこと。

11 月 NZ に移住するには

米大統領選直後のアメリカでは「NZ に移住するには」というフレーズの検索が急増したとの報道が NZ ヘラルドにありました。これはアメリカの政治の現状、辟易した結果を表わすもののようです。しかし全体ランキングでは、NZ は 10 位までには入っていません。何と 2 位と入ったのが、日本でした。

3 月～現在 コロナ禍の日常生活

コロナ禍での現在までの生活は、H は午前中に身辺整理、午後にはガーデニング、修理、内外の掃除、料理、たまにアートづくり、月一度 A4、2 枚の物語の執筆、薪づくり、道普請、草刈りなどなど。家から出ることは、ほとんどありません。ただ、これまでに日本の食材の買い出しに数回、オークランドに出かけました。

J は午前中に、翻訳の仕事、メールの整理、たまにオンラインの会議に参加、午後にはガーデニング。H に比べ、外出することが多い。集会参加が許されてから、週に 1 回のインドダンス、月に 2 回の日曜日にクエーカー（キリスト教の一派。形式的儀式を排し、謹厳質素な生活をし、絶対平和を主張する）の集会に参加しました。月に一回のグリーンマーケットへの出店、不定期なものに買物、演劇鑑賞、地元の催し、友人と会うなどの外出がありました。5 月に J にとっては思いがけないプレゼントがありました。J の高校生時代の下宿先のお母さんがわりだった女性が亡くなり、遺産相続の一部として NZ\$5,000 を頂きました。通常、遺産は家族や血族関係の人たちで分配されるのですが、J の場合は特別と言えます。2020 年に掲載された J の書き物は、次のようです。英語ですが、興味がおあり方は次のサイトをご覧ください。

季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

● Japan Spotlight

「NZ のコロナ対策について」

https://www.jef.or.jp/journal/pdf/233rd_Special_Article_01.pdf

「世界の環境とコロナに関する記事」

https://www.jef.or.jp/journal/pdf/235th_Special_Article_02.pdf

●12 月に出版された「ワインで乾杯」の本に、一つのストーリーを寄稿

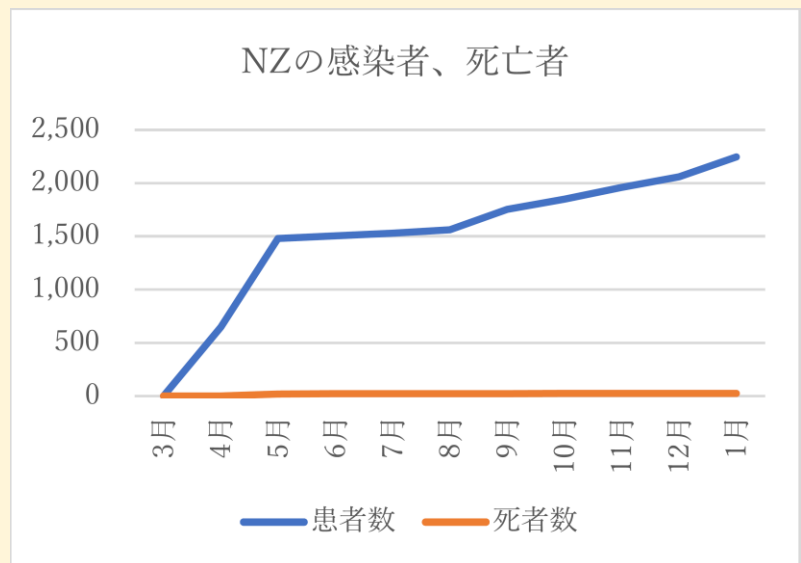
<https://finelinepress.co.nz/wine.html>

ずっと家にいることが多かったのですが、それほどのストレスもなく、喧嘩することもほとんどなく、過ごしてきました。その意味では、コロナ禍も平和な一年をもたらしてくれたと言えます。

新型コロナウイルスの NZ での現状

発生から 1 年が経過してもまだ収束を見せない新型コロナウイルスの蔓延。数字で NZ の現状を見ると、旨く抑え込んでいるといえます。グラフでは、見づらいのですが死者数の数は、6 月から 9 月までは 22 人、10 月から現在まで 25 人で止まっています。

累計の患者数ではなく、現在、病院に留まっている患者数は 76 人です。



2 月の帰国

いつもなら、2 月には帰国し、雪下ろしをしたり、確定申告書を書いたりしていましたが、今年は帰国できません。その代わり、夏の NZ を楽しめます。その一つが、いつもなら食べられないわが家のトマトやきゅうり、モモなどの野菜や果物があります。どんな味がするか楽しみです。

今後の日本への帰国予定

コロナの状況次第といったところです。緊急事態宣言中の現在は、帰国できませんが、状況が緩和すれば、帰国したいと思っています。そのためには、さまざまな課題がクリアされなければなりません。まず NZ 出発前のコロナ検査。次にフライトが、どうなるかです。今現在は、週に一遍の成田直行便があります。今後どうなるのか。次に成田空港に到着した後の

季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

PCR 検査。過去には鼻から粘液を採取するのでとても痛かったそうですが、今では唾液でできるようになり、嬉しい限りです。次は公共交通機関の利用禁止があります。タクシーも電車も使えません。唯一の手段はレンタカー。これで飛騨高山まで帰らなければならないとなると大変です。J の日本の永住権のこともあります。今は永住権を持っていますが、2 月末までに帰国しないと、消滅となってしまいます。通常なら出国から 1 年以内の帰国が義務付けられていたのですが、特例で 7 月末までに帰ればよくなりました。オリンピック開催に向けて、入国者に対する緩和策も検討されているようなので、期待しています。

最大の難関は、NZ 国にあります。入国した旅行者は、政府の指定する施設で 2 週間、自己隔離しなければなりません。そのため事前に、この施設の予約が必要ですが、今のところ予約がいっぱいとのこと。この費用が 2 人で NZ\$4,050 にもなります。日本円で約 30 万円。牢獄のように自由を奪われ、その上、自分でお金を払わなければならないのは何とも馬鹿らしい。これだけあれば、普通ならもう一回分の旅行できます。新型コロナウイルスをうまく抑え込んだことで、世界的にも評価の高い NZ ですから、この評価を手放さないよう簡単には、この 2 週間の自己隔離を緩和しそうにもありません。

希望的にはオリンピックのどさくさに紛れ、こっそり帰国できればと願っています。

新型コロナウイルス像

2020 年、世界に異常に蔓延した新型コロナウイルスを記憶に残すため、顔だけの彫刻をぼちぼち作り始めています。顔は鉄道の古くなった枕木を使い、角(つの)は線路を止めるペグ。これは豪州

を旅した時に廃線となった鉄道から拾い集めたものです。耳にはスパナのイヤリングで飾り、先にはビールの王冠に星の付いたものにし、スパナのネジで止めます。星印は世界の国旗に星が使われている国が多々あります。アメリカ、EU、中国、豪州、NZ、ベトナム、マレーシア、イスラエル、ガーナ、トルコ、フィリピン、キューバ、チリ、ブラジルなどなど。正に航空連合とは別のスターアライアンスの様相を呈しています。皮肉にも対立関係にあるあのアメリカと中国も、ともに星がデザインされています。

目は、NZ の先住民が彫刻によく使う貝殻を配します。口は厚手の鉄の板。鼻はシャンペンのコルクの栓といったところです。使う材料はガレージに溜まっているガラクタから選びます。マスクは黒のスカーフ状のものにします。完成の暁には、パドックのフェンスのポイントポイントにある太い円柱の上に置きます。(「コロナ禍の一年」は、ここで終わり)

季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

日本のイメージ

どうも、このところの日本の経済力の低下に比例したのか、NZ の人たちの日本を見る目も変わりつつあるのではないかと思います。テレビで見たようなのですが、日本の町にはゴミがないと感心する人がいたり、日本に行って、あの美しく素晴らしい入れ墨をしてもらいたいという若者に、何人も会いました。

町を歩けば、駐車してある車の 7、8 割方は日本車で占められています。かつて、海外駐在員たちの間で交わされた日本の国花は何かというジョークがありました。答えはカーネーションです。それは car=車、nation=国、国家をくっつけたものです。Car-nation、確かにカーネーションと発音できます。経済力に裏付けされた自動車のような物から、関心は違ったところに移りつつあるのではないかと感じています。

145 日目に判明した病名

6 月になり、H の左腕上腕が痛むようになりました。この国では病気になっても、直接病院に行き、診察を受けるようにはなっていません。GP(General Practitioner)というかかりつけ医..... に、まず行かなければなりません。このお医者さんの仕事は、自分で患者に対応できるかどうかを判断することにあります。自分で出来ないとなると専門医に紹介状を書くことになります。専門性はなく、広く浅い知識しかないお医者さんということになります。

H の場合、地元の診療所に電話して、GP の都合のいい日に診察の予約を取りました。当日、診察を受けましたが、よく分からない。レントゲンもない。鎮痛剤をもらう。翌日、住んでいる町から北へ 30km にあるチームズにある総合病院でレントゲンを撮ってもらいましたが、結果は教えてもらえず。本院で写真を見た後、結果は出してもらえとのことで、しばらく待つことに。

痛みがなかなか治まらないので、民間治療薬として使われるコンフリー（植物）の葉を湿布してみるが、効き目なし。発症してから 10 日目頃から痛みで夜、眠れず。昼になると、気が紛れて眠れる。発症から 11 日目、2 回目の GP の診断。前回とは違うお医者さん。外科的な問題ではないと判断したようだ。痛風ではないかと、痛風の薬をもらう。血液検査をする。痛風なら血液検査で分かる。発症 18 日目。血液検査の結果、痛風は否定された。先のレントゲンの結果に異状はなし。しかし病名は依然として不明のまま。発症から 29 日間は痛みが続いた。鎮痛剤が効いたのか、30 日目以降、少し楽になる。診療所から郵便物が届き、セミ緊急状態だとのリストに載ったことを知る。3 ヶ月以内

季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

に専門医による診察があるとのこと。もはや、痛みはなくなっていた。85 日目、専門医の診察日が 9 月 29 日に決まる。92 日目、特に説明も理由もなしに 10 月 27 日に延期となる。発症 145 日目、テームズにある総合病院で、専門医の診察を受ける。左上上腕二頭筋腱断裂と診断され、筋肉が切れているが、今後、問題はない。X 線検査の結果、骨はとてもきれい、筋力もいい。発病した原因は年齢と使い過ぎとされました。

H は年金生活者で時間の余裕があるので、今回のような状況でも、診療所や病院に行けました。しかし勤めを持つ人たちにとって、病院から指定された日に出かけるのは、相当の困難を要します。元々、NZ の建国の理念としては、高福祉国家。従って、医療費は安価にとの建前があります。私たちのような移住者もその対象となります。しかし、今回の例が示すようにスピード感がない。悪性の進行性の病人の場合は、スピード感を持って治療してもらわないと、命が危ない。何か H だけが特別に差別されているようにも思えますが、実態はそうでもありません。J も友人知人も病院の治療待ちの人たちがたくさんいます。どうも医療では、福祉国家の本音と建前の部分で齟齬をきたしているようです。

公的医療制度には、医療に早期発見、早期治療という哲学がない。そのため、人間ドックもない。スピード感のない、医療システムに見切りをつけた人たちは、プライベートの医療保険に加入し、そこが提供する医療が受けられるようになっている。検査や治療も、すぐに受けられる。これなら、少なくとも病気になっても、命が危ないこともなさそうである。今回のことを通して、H は、何か体に異常を感じたら、すぐに日本に帰国し、検査や治療を受けるように決意したところです。人間ドックも、機会があるごとに受けることにしました。

日本図書館

ずっと開店休業状態が続いていましたが、12 月中旬に H の在留証明書取得に在オークランド日本国領事館に出向いてから、風向きが急変しました。この時、私たちの書いた英語の本を寄贈したのですが、この本に日本図書館の記載があることが受け取ったスタッフの目に留まり、事情を知りたいと言われました。実は総領事館で日本財団からの照会で、私たちの日本図書館の存在を探していたとのこと。総領事も含めて、早速、懇談となりました。



季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

1 月 8 日には濱田総領事が図書館に来ていただきました。

これまでも、いつかいつかと考えていた HP を開設することにしました。これを機会に、この図書館がより広く活用されるようになればと願っています。

わが家の LOGO(ロゴ)



永年、考えてきましたが、ようやくわが家の LOGO (シンボルマーク) が完成しました。H の姓である Morishita の M と、J の姓である Yorke の Y を組み合わせて作りました。M を山の形に、Y を樹の形に見立てたものです。わが家の台所から見える当地のシンボルとなっている Karangahake 山からヒントを得たものです。最初に、友人に作ってもらったペーパーナイフに取り入れ、現在は陶磁器の皿に写してもらっています。

五右衛門風呂

今では、ほとんど消滅してしまったものに、五右衛門風呂があります。かつて、家庭風呂といえば、この五右衛門風呂が主流でした。名前の由来は、かの有名な大泥棒・石川五右衛門が処刑されるのに釜ゆでにされたところにあります。鉄の釜の下から火を焚き、お湯にする。釜にそのまま入ると底が熱いので、木のスノコを沈めて、その上に乗って入りました。

J の姪が、何を思ったか金属製のバスタブを持ってきてくれました。浴槽の内側は琺瑯ほうろうになっています。12 月になり、これを家から近い所に据え付けました。敷地内に放置されていた長さ 1.8m、10 cm 角のコンクリ



季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

ート柱を運び、4 本立てて、浴槽の支えにしました。地中に 1m の深さに埋めました。このコンクリート柱、パドックのフェンス用に使われていたものと思います。

バスタブの下に、リサイクルショップで見つけたコンクリートブロックを敷き焚口にしました。案外、簡単に効率よく、30 分ほどでお湯になりました。まだバスタブが斜めすぎて入りにくいので、微調整が必要です。

12 月 20 日から、屋外での焚火規制が始まり、火を焚けなくなりました。これでは、数カ月の間、五右衛門風呂は焚けないことになります。火を使わず、お湯を作る方法を試しています。黒ビニルホースに水を入れて、コンクリートの上に転がしておけば、天気の良い日ならお湯になります。しかし、量の確保が心もとないです。バケツとかでは、なかなかお湯になりません。室内にあるストーブでお湯を沸かすことも考えています。

ここでは、屋外に蚊とかブヨとかはあまりいませんので、この五右衛門風呂、なかなか快適です。人目もないので目隠しは、今のところ作っていません。

サウナ

前々から、サウナを作るつもりでいますが、今現在、一頓挫しています。いちばんの理由は、適当なストーブが見つからないところにあります。サウナと言っても、2 種類あります。日本でよくある高温の熱風と吹き出すものと、フィンランド風のストーブの上に石を並べ、その石に木の葉で水を掛け、蒸気を発生させるものがあります。今、考えているのはフィンランド式です。そのためにはストーブが必要ですが、火を焚いて、ストーブの上部が熱くなるタイプのものが、この国では、なかなか見つかりません。安全上から販売していないようなのです。ストーブが見つからないと先に進めません。

小屋は自分で建てようかとも思っていました、いい大工さんがいたので、この人に頼もうと思っています。材木は、製材業を営む J の友人にお願いするつもりです。どうもイメージが今一つしっかりしないので、いっそのことフィンランドを訪れ、田舎のサウナ巡りをしてから建築に向かおうかとも考え始めた所です。これまでも H は数回、田舎の湖のそばにあるサウナ小屋に行ったことがあります。フィンランドに行くことになれば、ロシアの侵攻が危惧されるバルト 3 国へも、行けるうちに行っておこうと思っています。

季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

美味しいもの、旨いもの

2020 年はあまり外国にも行けず、美味しいもの、旨いものとの出会いは少なかったのですが、やっぱり 2 月に訪れた美食の国フランスは、すごいと思いました。宿にしたのはモンパルナス墓地の近くのホテルでした。宿は地下鉄を降りて、車のすれ違いも出来ないほどの路地にありました。しかし道の両側に肉、チーズ、アルコール、ワイン、果物、甘いもの、花、スーパー、デリカテッセンなどの店舗がずらっと並んでいました。食事は下手なレストランで取るよりは、こうした店で買物をしてホテルで食べた方が、落ち着いて食べられます。特に旨いと思ったのは地中海名物のタコ、イカの酢の物。しばらく魚を食べていなかったのも、これは旨かった。2 日続けて食べました。チーズも好みに合わせ、じっくりと説明をしてくれます。いつものことながらパリの朝、焼き立てのバゲットは美味しい。

NZ では、小さな港にある魚の店で買った鱈(たら)が旨かった。刺身、鍋にして食べました。日本にあって NZ にない食べ物の一つが、ホルモンです。肉類は豊富にあるのですが、内臓は捨てられてしまうのかホルモンはスーパーや精肉店で入手できません。探しに探して、肉類の解体をしている人に頼んで牛の腸を入手して、食べてみました。やはり久しぶりということもあり懐かしく食べましたが、油の多さに閉口して、2 回だけでこの試みは止めてしまいました。

これからは美味しいもの、旨いものの真逆のものです。NZ は間違いなく酪農大国です。これを期待して、美味しいバターを探していますが、これがないのです。スーパーのものは、今一つ。オークランドに出た折には、ちょっと洒落た食品専門店に行きましたが、チーズはたくさんあるのですがバター 4 種類。一つ買って帰りましたが、美味しくなかった。

ゲーリー・ワイレンスポーツ科学博士 の「高齢者時代をどう生きるか」の本

2020 年に 85 歳となったゲーリー・ワイレンスポーツ科学博士。トランプ米前大統領の所有するフロリダのゴルフクラブのヘッドプロであり、85 歳の現在でも活躍されている博士の元気で長寿の秘訣を本に纏めようとしています。2020 年の 2 月に帰国し



季節のご挨拶(2020 年)

Web ページ版

た際、出版社との打ち合わせを計画していましたが、生憎、新型コロナウイルスの発生で会食しながらの打合せが出来なくなり、打合せは次回の私たちの帰国まで延期となりました。

写真は、博士 85 歳の誕生日を記念して開かれたゴルフの後、友人で世界的に投資家で大富豪として著名なウォーレン・バフェット氏(90 歳)と。

来訪者

毎年、わが家を訪れていただける方々があったんですが、流石に 2020 年はコロナ禍ということもあり、来訪者はゼロとなりました。これまでゼロの年はありませんでした。そこそこにコロナ禍も収まれば、お出かけください。来ていただける方々をお待ちしています。

今年の季節のご挨拶も長いものになってしまいました。最後までお読みいただき、どうもありがとうございました。

皆さまにとって、2021 年が健康で、希望に満ちたものとなるようにと願っています。

2021 年 1 月

アオ テア ロア(長く白い雲のたなびく国) ニュージーランドより

ジリアン・ヨーク

jisabelle29yorke@gmail.com

森下 均

arbo4000@gmail.com

住 所

37 Edwin Road, RD4, Paeroa 3674, New Zealand

電 話

国番号(64)-7-862-6834

日本での携帯電話 090-1291-3361

